

平成29年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1493000085	事業の開始年月日	平成20年12月1日	
		指定年月日	平成20年12月1日	
法人名	株式会社 日本アメニティライフ協会			
事業所名	花物語 やまと			
所在地	(242-0001) 神奈川県大和市下鶴間2973-2			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18	名
		ユニット数	2	ユニット
自己評価作成日	平成29年8月12日	評価結果 市町村受理日	平成29年12月12日	

基本情報リンク先 <http://www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/003hyoka/hyokanri.nsf/pSearch3?Open>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

月2回の音楽レクでは、外部の講師をお招きして行っており入居者様全員参加で歌や簡単な体操をしています。裏庭ではボランティアさんによる菜園がありそこで育った野菜を収穫し食しています。引き続き地域に根ざした施設運営を心がけています。定例となった保育園児との交流会をはじめ地域の方々を施設行事へお招きすること、入居者様の地域行事への参加など地域の皆様との繋がりを大切にしております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 湘南リハウスビル3階		
訪問調査日	平成29年10月13日	評価機関 評価決定日	平成29年12月1日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

横浜市に本社を置き、東京、神奈川にグループホームやデイサービス、有料老人ホームを中心に複数の介護事業所を展開している「株式会社日本アメニティライフ協会」が運営する「花物語 やまと」は、平成20年12月に開設されて約9年のグループホームです。小田急線南林間駅から徒歩15分程の住宅街に自家菜園がある2階建ての2ユニットの事業所です。小規模多機能型居宅介護事業所が併設されています。

<優れている点>

地域と交流を積極的に行っています。自治会の行事には夏祭り、子供相撲に見学に行っています。事業所行事は、自治会の掲示板にチラシを貼ってもらい、地域の子供たちが参加しています。近隣の保育園とは入居者が運動会に出向き、園児が敬老会やクリスマス会などで訪れたり相互に行き来しています。運営推進会議には自治会長などの地域の人が出席し、情報交換などを行っています。夜間想定避難訓練には、近隣住民の人が、外に避難した入居者の見守りを行っています。地域のボランティア団体も事業所に来ています。

<工夫点>

小規模多機能型居宅介護事業所との交流を図っています。入居者が小規模多機能型居宅介護事業所を訪問したり、音楽レクなどの内部での行事に参加したり、祭りなどの外部との行事は合同で行っています。職員は、小規模多機能型居宅介護事業所に研修に行っています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	花物語 やまと
ユニット名	1Fフロア

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			○
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
			○
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	地域に根ざした事業所として理念を踏まえ、入居者様に敬意を持って接し、安心・安全・清潔な生活を送って頂けるよう支援しています。	理念の「人生の大先輩。ホットな家。目配り、気配り、心配り。」と、今年度のスローガン「皆様の幸せな笑顔を頂きます。」を各ユニットに掲げています。毎朝の申し送り時に唱和して入居者が安全、安楽な生活が送れるよう実践につなげています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に加入しており、行事への参加交流を行っています。施設のイベントにもご協力頂いております。	自治会の夏祭り、盆踊りなどに参加しています。保育園児が来訪して、合唱などを披露して入居者との交流を図っています。事業所のカキ氷大会には近所の子供たちが参加しています。事業所自体が地域の一員として、地域との交流を積極的に行っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	併設している小規模多機能型居宅介護とも連携し、ご家族様や地域の方々からの疑問・質問にお答えしております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月ごとに開催し参加者から意見や要望等を頂いてより良い運営ができるよう生かしています。	2ヶ月ごとに小規模多機能型居宅介護事業所と開催しています。入居者、家族、民生委員、自治会長、区介護保険課、地域包括支援センター職員などが参加しています。ホームの運営や災害時の対応などについて説明し参加者からの意見をサービス向上に活かしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	市担当者とは運営推進会議で生活状況や活動状況、事故報告（発生時）を行い指導や助言を頂いています。また、市からの情報提供等随時連絡を取り協力関係ができています。	介護保険課に運営推進会議議事録を持参して、意見交換をしています。グループホーム連絡会に参加して研修会に参加する機会としています。市主催の感染症予防などの研修にも参加しています。来年3月までに他の事業所と交換研修会を行う予定です。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束については行動制限を含め常に話し合いを行い、工夫したケアを行っています。また、研修を実施し自己のケアを振り返る機会を作っています。	「身体拘束廃止マニュアル」を作成し、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。虐待防止や言葉による行動制限の研修を行い、自己点検シートで確認して、つい何気なく使ってしまうがちな、入居者への言葉による拘束に注意を喚起しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止・身体拘束の排除に関する研修を行い、ケアを行う上で言葉の虐待問題や疑問を解決するよう理解を深めております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	倫理及び法令遵守・権利擁護に関する研修を行い、人権の擁護の中で成年後見制度に触れ施設内に2名の利用者がある事で理解を深めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約前には重要事項の説明を十分に行い質問や疑問について納得されるまでご本人様やご家族様と話し合いを行っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議の出席や面会にいらした際に面談を行い、ご意見やご要望を伺い対応できるよう努めています。	玄関に苦情受付窓口を掲示しています。「苦情対応マニュアル」を整備し、「苦情受付処理簿」を作成しています。「接遇マナーと苦情処理について」と題して研修を行っています。行事や日常の写真と文章を記載した「花物語やまと通信」を出しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティングや個別面談等で個々の職員の意見や提案を反映させ、事業所内の風通しが良くなるよう心がけている。	管理者は、日頃から職員に話し掛けて話しやすい雰囲気作りをし、年1回個人面談を行っています。月に1回のスタッフミーティングでは、職員から意見や希望を聞き、実現に向けて話し合いを行い、出勤時間帯よっての業務の変更などを行っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	施設長・管理者は各職員の勤務状況や仕事を把握し、随時面談を行い職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	内部研修はもとより、外部研修についても受講する機会を阻害しないよう勤務ローテーションへの配慮を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	市内のグループホーム連絡会に加入しており、交流会や職員の交換研修を行い、サービスの質の向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご本人様の育った環境や趣味などを伺いながら、心配事や困っている事をくみ取り、ご要望を確かめながら不安を取り除き安心してお過ごし頂けるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご要望や不安、困っていることについてご家族様が納得されるまで話し合いを行い、協力し合える関係作りを行っています。また、他事業所からの情報にてアセスメントを作成しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	サービス開始にあたり必要に応じ、行政、医療への手続きや連絡を行いご家族様、ご本人様の要望や必要に応じ他事業所とも連携を図って支援を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	洗濯物をたたんで一緒に仕分けをして頂いたり、人生の先輩としていろいろな事を教えて頂きます。お互いを気遣える関係を築いています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご本人様のご様子や暮らしぶりなどの情報をご家族様と共有し、必要時の受診などご家族様と協力しながら行う事で、ご本人様の状態をご理解頂き精神的な支えになっていただいています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご友人との面会や外出がゆっくり行えるよう配慮し、ご来所頂きやすい雰囲気づくりに心がけています。	友人や知人が面会に来ています。小規模多機能型居宅介護事業所の送迎の車に同乗して馴染みの近隣へドライブに出かけています。家族と買い物や外食、墓参りに出かける入居者もいます。年賀状が届いた際には、年賀はがきを書くように支援をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	レクリエーションや作業を皆様で行えるよう工夫し、できないことを助け合って補い「ありがとう」の言葉が自然に出てくる関係作りができています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後もご本人様・ご家族様との関係を継続し、いつでも相談が行えることをお伝えしております。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人様・ご家族様から直接お話を伺い、表現できない方については、日頃の会話や行動から汲み取るよう心がけミーティングなどで把握・検討を行っています。	職員は、笑顔で優しく丁寧に声掛けをして表情や仕草で入居者の意向を読み取るようにしています。職員と一緒に食器拭きなどの祭にも雑談の中から思いを聞いています。把握した思いや意向は申し送り時に伝え、支援記録に記載して職員が共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所前の生活状況やご家族様との関係、またサービス利用状況、入院時の情報等サービス提供事業者やご本人様・ご家族様にお話を伺い、把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人一人の生活のペースを把握することに努めており、その日のご本人様の心身状態や意向に沿って出来ない事は職員と一緒に出来るよう援助します。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	介護職員・看護師・介護支援専門員それぞれの立場で話し合い介護計画を作成しています。モニタリングを行い、担当者会議で現状にあった介護計画の変更を行っています。	ケアプラン作成担当者は、本人、家族から希望を聞いてアセスメント、モニタリングを行い、ケアカンファレンスで職員の意見を聞いています。サービス担当者会議を開催し、医師、看護師の意見を聞きケアプランを作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入居者様の日々の様子や状態は記録に残し、状態の変化や気づいたことを担当者会議等で話し合い介護計画に反映しケアに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	行政支援やボランティア、他事業所等活用し、ご本人様やご家族様の状況に即した支援を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	自治会の行事への参加を含め近隣の方々との交流の場への外出や施設行事での地域ボランティアの方々との交流を通して豊かに楽しみのある生活を送って頂けるよう努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	訪問医とご本人様、ご家族様、事業者が協議の上治療方針を決め、病気の治療や経過観察を行っています。また、訪問医と専門医との連携を図り適切な医療を受けられるよう関係を構築しています。	協力医師による月2回の往診と特別往診で病状を把握し、入居者、家族、事業者が協議の上、治療方針を決めています。嘔吐などの緊急事態発生の場合は、報・連・相で状態が管理者に伝えられ、管理者の指示で協力医療機関に搬送などの手当てを依頼しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護職員を配置し、入居者様の健康管理や状態変化に応じた支援を行っている。24時間オンコール体制をとっており入居者様の状態について適時報告し指示を受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は訪問医からの医療情報の提供や日常生活状況の提供を行い、退院時には退院後の治療・療養が安心して行えるよう病院関係者とスムーズな連携ができる関係を構築しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化や終末期に向けた方針について入居時に同意を頂き重度化した場合には訪問医、ご家族様、ご本人様、職員が改めて話し合いを持ち、その方に合った終末期の迎え方を共有し、実施します。	重度化や終末期に向けた指針を入居時に家族に説明し同意を得ています。重度化した場合には、家族の希望に対応して、医師と事業所との三者による話し合いを行い、家族の同意と全面的な協力及び看護師のサポートのもと看取りを行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時の対応方法については緊急対応マニュアルにて研修を行い職員への周知を図っており、実践的な指導を施設看護師より受けています。また、救命救急の講習にも参加しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	事業者として災害時や夜間想定避難訓練を定期的に行い、地域の方々に参加して頂いています。また、全職員が消火器訓練を行い、火災予防の為日々の消防点検を行っています。	避難訓練は、消防署の立ち合いのもと、併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で定期的に年2回行っています。夜間想定避難訓練では近隣の住民の人が、外に避難した入居者の見守りを行っています。災害用備蓄品をリストにより3日分管理しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入居者様は「人生の大先輩」とであるという理念のもとに接遇しており、失礼のないよう心がけ、その方らしさや個性を大切に話し方や内容を考えた対応をしています。	接遇やプライバシー保護の研修を行い、毎朝の申し送りに接遇の言葉を唱和し意識づけをしています。職員は、日々の現場でその都度、互いに注意を喚起し、親しみのある態度で入居者との言葉遣いに努めています。呼び名はさん付けが主となっています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	生活習慣や価値観を大切に一人一人が自分のペースで生活し、やりたい事や出来ることを自己決定できるよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人一人の生活のリズムやパターンに合わせ、職員は業務や作業を工夫し連携をとって行っています。各入居者様がやりたい時、出来る時を見極め、希望に沿った支援が行えるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	訪問理美容の活用やその方の好みやスタイルを把握し、清潔に生活できるよう声かけを行い、洋服選び・着替えが出来るようお手伝いしています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	献立の調達を業者調達としています。入居者様の状態に合わせた形態で提供し、出来る方には下膳や食器拭き等をお願いしています。	業者のレシピと材料を使用し、職員が調理しています。食べるのが何より楽しみな入居者のために、職員は献立を貼ったり、説明を加え、皆で美味しく食べやすい食事形態の配慮をしています。職員と一緒に大好きな寿司、ハンバーグなどを買いに出かけています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量。水分量は毎食確認し変動がある時は看護師、医師へ報告し、指示を受け対応しています。個々の好みや状態に合わせた食事を提供し習慣に合わせた支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、一人一人の能力にあわせ職員による声かけや介助にて入居者様の口腔ケアを行っています。義歯は必ず夕食後洗浄液を使用し口腔内の清潔の保持が出来るよう支援しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	その方の排泄パターンを把握し無理なく誘導を行い、排泄がトイレで行えるよう支援しています。	排泄表と支援記録で排泄のパターンを把握しています。声掛けや誘導によって紙オムツから布パンツへ改善した入居者がいます。夜間、入居者独りでトイレに行かれるようにトイレの前に照明を付け、トイレの中の照明は、人感センサーを設置しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	職員は運動の必要性を理解しており、食事や水分の提供に際し各専門職のアドバイスを受けてたり、研修等へ参加しその方に応じた予防に取り組んでいます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴管理は職員が行っているが、その方の希望や体調を優先し日程や時間を調整しています。気持ちよく入浴して頂けるよう声かけやタイミング等工夫した支援を行っています。	週2回の入浴を基本としていますが、入居者の体調や希望を配慮した対応をしています。入浴を拒む入居者には音楽を流したり、入浴剤を入れたりしています。入浴時には、職員は会話にも配慮して入居者が楽しむことができるように支援をしています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中、その方の能力に合わせた運動や作業で体を動かして頂き安眠できるような環境を整えています。夜間巡回時に室温・湿度や睡眠状況を確認し支援を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬方法、用法、用量、副作用について訪問医の指示や薬剤師の注意を守って行っています。また、変更があった場合は看護師が申し送りを行い、職員全体に周知を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	様々な生活歴、生活や能力を活かし、その方が力を発揮し役割を持って生活を送って頂けるよう心がけ、感謝の気持ちをお伝えすることで、やりがいを持って頂けるよう努めています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している。	買い物や散歩等、その方の希望に沿うよう職員が連携をとり支援しています。また、ご家族様と協力しながらお墓参りや食事、外泊ができるよう支援し、自治会と協議し花見へ参加したりと、楽しむ時間を持って頂けるよう努めています。	天気の良い日は散歩に出掛けたり、外気浴をしています。買い物に職員と一緒にしています。小規模多機能型居宅介護事業所の送迎時に入居者が同乗して外出しています。自治会の花見などの行事に参加したり、家族が食事や墓参りで外に連れ出しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理は概ね施設が行っていますが、その方の希望に沿い買い物などに行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	事務所内の電話のご利用や手紙のやり取りはご本人様とご家族様の意向に即して行えるよう支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家族的な雰囲気を大切にし季節の花々を飾り、南向きの窓から差し込む光でホッとできる明るい空間となるよう配慮している。室温・湿度管理を行い心地よく過ごして頂けるよう努めています。	毎日2回、午前7時と午後2時にリビングの温度・湿度を測り、適正温度を確認しています。入居者がリビングに気持ちよく居やすいようにソファを2つ置いたり、季節の花を紙で作って壁に貼っています。清掃業者に床のワックスがけ、エアコンのフィルター掃除を定期的に依頼しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	仲の良い方同士で居室で過ごして頂けるよう配慮したり、入居者様の相性に配慮した席順を用意し、入居者様が気持ちよく快適にお過ごし頂けますよう努めています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご自宅よりご本人様の馴染みの品物や家具を持ち込んで頂き、その方の居心地の良い環境作りに配慮し、今までと変わらない生活が送れるようご家族様に協力をお願いしています。	居室の備え付けはベッド、エアコン、大容量のクローゼットがあります。馴染みの本棚、テレビやぬいぐるみが置かれたり、家族の写真などを持ち込み飾っています。管理者は、生活動線を考えた家具の配置を提案し、居心地良く過ごせるよう配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫しています。	トイレ、浴室、各居室は大きなラベルで表示し迷わないよう工夫しています。出来ないことは、職員が一緒に行う事で自立した生活を送って頂けるよう支援しています。		

事業所名	花物語 やまと
ユニット名	2Fフロア

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	地域に根ざた事業所として理念を踏まえ、入居者様に敬意を持って接し、安全・安心・清潔な生活を送って頂けるよう支援していきます。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に加入しており、行事への参加交流を行っています。施設でのイベントにもご協力頂いております。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	併設している小規模多機能型居宅介護とも連携し、ご家族様や地域の方々からの疑問・質問にお答えしております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月ごとに開催し参加者から意見や要望等を頂いてより良い運営ができるよう生かしています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	市担当者とは運営推進会議で生活状況や活動状況、事故報告（発生時）を行い指導や助言を頂いています。また、市からの情報提供等随時連絡を取り協力関係ができています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束については行動制限を含め常に話し合いを行い、工夫したケアを行っています。また、研修を実施し自己のケアを振り返る機会を作っています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止・身体拘束の排除に関する研修を行い、ケアを行う上で言葉の虐待問題や疑問を解決するよう理解を深めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	倫理及び法令遵守・権利擁護に関する研修を行い、人権の擁護の中で成年後見制度に触れ施設内に2名の利用者がいる事で理解を深めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約前には重要事項の説明を十分に行い質問や疑問について納得されるまでご本人様やご家族様と話し合いを行っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議の出席や面会にいらした際に面談を行い、ご意見やご要望を伺い対応できるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティングや個別面談等で個々の職員の意見や提案を反映させ、事業所内の風通しが良くなるよう心がけている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	施設長・管理者は各職員の勤務状況や仕事を把握し、随時面談を行い職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	内部研修はもとより、外部研修についても受講する機会を阻害しないよう勤務ローテーションへの配慮を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	市内のグループホーム連絡会に加入しており、交流会や職員の交換研修を行い、サービスの質の向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご本人様の育った環境や趣味などを伺いながら、心配事や困っている事をくみ取り、ご要望を確かめながら不安を取り除き安心してお過ごし頂けるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご要望や不安、困っていることについてご家族様が納得されるまで話し合いを行い、協力し合える関係作りを行っています。また、他事業所からの情報にてアセスメントを作成しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	サービス開始にあたり必要に応じ、行政、医療への手続きや連絡を行いご家族様、ご本人様の要望や必要に応じ他事業所とも連携を図って支援を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	洗濯物をたたんで一緒に仕分けをして頂いたり、人生の先輩としていろいろな事を教えて頂きます。お互いを気遣える関係を築いています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご本人様のご様子や暮らしぶりなどの情報をご家族様と共有し、必要時の受診などご家族様と協力しながら行う事で、ご本人様の状態をご理解頂き精神的な支えになっていただいています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	ご友人との面会や外出がゆっくり行えるよう配慮し、ご来所頂きやすい雰囲気づくりに心がけています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	レクリエーションや作業を皆様で行えるよう工夫し、できないことを助け合って補い「ありがとう」の言葉が自然に出てくる関係作りができています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後もご本人様・ご家族様との関係を継続し、いつでも相談が行えることをお伝えしております。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人様・ご家族様から直接お話を伺い、表現できない方については、日頃の会話や行動から汲み取るよう心がけミーティングなどで把握・検討を行っています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所前の生活状況やご家族様との関係、またサービス利用状況、入院時の情報等サービス提供事業者やご本人様・ご家族様にお話を伺い、把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人一人の生活のペースを把握することに努めており、その日のご本人様の心身状態や意向に沿って出来ない事は職員と一緒に出来るよう援助します。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	介護職員・看護師・介護支援専門員それぞれの立場で話し合い介護計画を作成しています。モニタリングを行い、担当者会議で現状にあった介護計画の変更を行っています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入居者様の日々の様子や状態は記録に残し、状態の変化や気づいたことを担当者会議等で話し合い介護計画に反映しケアに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	行政支援やボランティア、他事業所等活用し、ご本人様やご家族様の状況に即した支援を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	自治会の行事への参加を含め近隣の方々との交流の場への外出や施設行事での地域ボランティアの方々との交流を通して豊かに楽しみのある生活を送って頂けるよう努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	訪問医とご本人様、ご家族様、事業者が協議の上治療方針を決め、病気の治療や経過観察を行っています。また、訪問医と専門医との連携を図り適切な医療が受けられるよう関係を構築しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護職員を配置し、入居者様の健康管理や状態変化に応じた支援を行っている。24時間オンコール体制をとっており入居者様の状態について適時報告し指示を受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は訪問医からの医療情報の提供や日常生活状況の提供を行い、退院時には退院後の治療・療養が安心して行えるよう病院関係者とスムーズな連携ができる関係を構築しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化や終末期に向けた方針について入居時に同意を頂き重度化した場合には訪問医、ご家族様、ご本人様、職員が改めて話し合いを持ち、その方に合った終末期の迎え方を共有し、実施します。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時の対応方法については緊急対応マニュアルにて研修を行い職員への周知を図っており、実践的な指導を施設看護師より受けています。また、救命救急の講習にも参加しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	事業者として災害時や夜間想定避難訓練を定期的に行い、地域の方々に参加して頂いています。また、全職員が消火器訓練を行い、火災予防の為日々の消防点検を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入居者様は「人生の大先輩」であるという理念のもとに接遇しており、失礼のないよう心がけ、その方らしさや個性を大切に話した話し方や内容を考えた対応をしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	生活習慣や価値観を大切に一人一人が自分のペースで生活し、やりたい事や出来ることを自己決定できるよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人一人の生活のリズムやパターンに合わせ、職員は業務や作業を工夫し連携をとって行っています。各入居者様がやりたい時、出来る時を見極め、希望に沿った支援が行えるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	訪問理美容の活用やその方の好みやスタイルを把握し、清潔に生活できるよう声かけを行い、洋服選び・着替えが出来るようお手伝いしています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	献立の調達を業者調達としています。入居者様の状態に合わせた形態で提供し、出来る方には下膳や食器拭き等をお願いしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量。水分量は毎食確認し変動がある時は看護師、医師へ報告し、指示を受け対応しています。個々の好みや状態に合わせた食事を提供し習慣に合わせた支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、一人一人の能力にあわせ職員による声かけや介助にて入居者様の口腔ケアを行っています。義歯は必ず夕食後洗浄液を使用し口腔内の清潔の保持が出来るよう支援しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	その方の排泄パターンを把握し無理なく誘導を行い、排泄がトイレで行えるよう支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	職員は運動の必要性を理解しており、食事や水分の提供に際し各専門職のアドバイスを受れたり、研修等へ参加しその方に応じた予防に取り組んでいます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴管理は職員が行っているが、その方の希望や体調を優先し日程や時間を調整しています。気持ちよく入浴して頂けるよう声かけやタイミング等工夫した支援を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中、その方の能力に合わせた運動や作業で体を動かして頂き安眠できるような環境を整えています。夜間巡回時に室温・湿度や睡眠状況を確認し支援を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬方法、用法、用量、副作用について訪問医の指示や薬剤師の注意を守って行っています。また、変更があった場合は看護師が申し送りを行い、職員全体に周知を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	様々な生活歴、生活や能力を活かし、その方が力を発揮し役割を持って生活を送って頂けるよう心がけ、感謝の気持ちをお伝えすることで、やりがいを持って頂けるよう努めています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している。	買い物や散歩等、その方の希望に沿うよう職員が連携をとり支援しています。また、ご家族様と協力しながらお墓参りや食事、外泊ができるよう支援し、自治会と協議し花見へ参加したりと、楽しむ時間を持って頂けるよう努めています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理は概ね施設が行っていますが、その方の希望に沿い買い物などに行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	事務所内の電話のご利用や手紙のやり取りはご本人様とご家族様の意向に即して行えるよう支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家族的な雰囲気大切に季節の花々を飾り、南向きの窓から差し込む光でホッとできる明るい空間となるよう配慮している。室温・湿度管理を行い心地よく過ごして頂けるよう努めています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	仲の良い方同士で居室で過ごして頂けるよう配慮したり、入居者様の相性に配慮した席順を用意し、入居者様が気持ちよく快適にお過ごし頂けますよう努めています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご自宅よりご本人様の馴染みの品物や家具を持ち込んで頂き、その方の居心地の良い環境作りに配慮し、今までと変わらない生活を送れるようご家族様に協力をお願いしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。	トイレ、浴室、各居室は大きなラベルで表示し迷わないよう工夫してます。出来ないことは、職員と一緒にやる事で自立した生活を送って頂けるよう支援しています。		

平成29年度

目標達成計画

事業所名 花物語やまと

作成日： 平成 29年 12月 12日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	事業所として災害時や夜間想定避難訓練を日中、定期的に行っているが、入居者様は歩ける方のみ参加で行っているため実際の避難誘導時間が分からない。	夜間想定避難訓練では実際は寝ている時間なので起床の声かけから行う。	来年度の避難訓練は消防署立会いのもと、寝ている状態からの避難誘導を行い、実際により近い避難誘導時間を把握する。	5ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月